



戦災時に復元する部分の三階は、パナフト状に復元して内部は造らない。焼け跡をひとまず整理した状況を復元の基準とする。

塔屋及び
3階部分は
外装のみ

窓は穴とし
サッシを入れない

火災による
焼けただれを
再現する。

3階部分の
窓は穴のみ

2階&1階
部分の窓は
焼けただれに
なった
柱に見せか
けるために
スモークガラ
スの一枚板を
はめこむ。

戦災による
表面は上げ
煉瓦タイルが
落ちた部分は
探し出し
横造の煉瓦
が出た状況
に復元。

当初への復元は、外観のみ出来るだけ詳細にわたって復元すること。但し、柱は現代のものでよい。三階はホテル客室として整備。

冬夏会会長 平井 聖 講演会

復元すること

東京駅はそのまま復元してはいけません

詳細図（復元、左・戦災時、右・当初）

縮尺：約125分の1

平成 22 年度 東京工業大学建築系同窓会 冬夏会主催講演会

日時： 平成 22 年 7 月 28 日 午後 3 時 30 分開演 場所： 東京工業大学緑が丘講義棟 M011

参加申込方法：会員の方は名前・勤務先・卒業年、学生の方は名前・専攻・学年（研究室）を明記の上メールにて冬夏会事務局（toukakai@arch.titech.ac.jp）にお申し込みください。

主旨：

東京駅は 2003 年に国の重要文化財に指定され、現在その復元工事が進行中です。そこに現代に建築の復元をすることの意味を問う建築史家平井聖氏の眼差、建築の歴史についての多角的解説が展開します。今、私たちは未来へ何を伝えていけばよいのか、建築の担う役割を考える機会です。

平井 聖氏 プロフィール：

1952 年	東京工業大学卒業
1974 年	東京工業大学教授
1983 年	東京工業大学工学部付属高校校長
1990 年	東京工業大学定年退官、名誉教授
2003-7 年	昭和女子大学学長